



目標は達成できたか	感想
<p>できた。自身の故郷でエコツーリズムのための良いアイデアを思いついた参加者から素晴らしいフィードバックを得た。</p>	<p>今回は自分にとって初めて全てを英語で説明するセミナーだった。参加者はアマゾンとブラジル北部について学んだので、その学びから良い刺激を受け、今後自らも学んだ内容を発信してくれることを願っている。</p>
<p>できた。参加者に知識を共有することができただけでなく、参加者自身が世界の異なる地域における日本文化の視野を広げることができた。</p>	<p>このトピックはさほど多くの注目を集めることはないものだが、今世紀においてとても重要なトピックについての知識を共有することができた。またお互いの意見や感想をきく貴重な機会を得ることができたと思う。</p>
<p>セミナー終了後に多くの質問を受けたこと、それ以降にもこのトピックで参加者と対話する機会もあったことから、当セミナーの目標は達成できたと思う。しかし、発表時間の短縮の影響もあって、ディスカッションタイムを十分に取れなかった。可能であるなら参加者たちとより多くの時間をディスカッションに費やしたかった。</p>	<p>自分が現在所属するコミュニティでの農業を促進する活動をこのSWYでも行いたいという目的のもと、このセミナーを通して参加者が自国の食品生産に関してどういった知識をもっているのかを垣間見ることができた。また、それぞれの国でどのような食糧課題に悩んでいるのかも一部知ることができた。例えばトンガでは、野菜の根を他の島から輸入し、それを利用して自国の農業を発展させていることがわかった。 参加者たちは食糧がどのように育つか、農家から食料がどのように生まれるのか、土地や水の利用方法、収穫、洗浄等の出荷されるまでの行程、出荷されて最終的に家庭に食料が届くまでの一連の流れを知ることができた。</p>
<p>目標は達成できた。参加者は世界規模での気候変動を知ることができ、また気候変動への対応策がとられたアジアやアフリカ、南アメリカや太平洋の島々の具体的な事例についても知ることができた。選択した事例はとても具体的で明確な内容だったと思う。参加者は皆、知識を得ると同時に自身の気候変動に対する気付きも得られたということが確認できた。</p>	<p>主にコミュニケーションスキルと人前で話すことの自信を得ることができた。参加者は気候変動に関する正しい知識や世界規模の気候変動対策を知ることができた。また、自身が二酸化炭素排出等の身近な気候変動に関するトピックに敏感になり、一人一人が協力していく姿勢が重要だということを理解してもらえた。</p>
<p>設定した目標はセミナー後に成し遂げられると考えている。同じ状況で苦しめられている状況の例を挙げることで、国々を立ち直らせることができる。なぜなら、参加者はセミナーの目的を理解することで、出身地の物語を伝えることができるから。多くの参加者からカナダの原住民について多くの質問を受けた。それは参加者がその状況についてより理解や好奇心を持っているからだと思っている。</p>	<p>自分たちの文化要素を共有する機会を得ることができ、それによって参加した様々な背景の人々が社会的正義のための戦いに対して一体となることができた。また、世界中の同様の状況や、それぞれの国の人々が人権侵害された人々のための安全な環境を作り出す方法について学ぶことができた。 参加者は、説明によってそれぞれがカナダの歴史を理解し、深く知ることができた。また、今回得た人権侵害された人々に対する知識を、参加者それぞれのコミュニティの中で再度議論できる機会を得たとも考えている。</p>

主催者の国籍 (開催時間)	セミナーの題名	発表者名	目標
コスタリカ (60分)	21世紀の社会的責任	Jasson Muir Clarke Keiner Jiménez Alvardo	社会的責任は、ビジネス傾向の組織哲学に影響を受けている。なぜ社会的責任は私たちの国際人材としてのインパクトや、今日の経済社会に社会的責任構造が影響するの かについて学ぶ。
コスタリカ (60分)	コスタリカの歴史保護	Deiber Gerardo Quesada Ramírez Jorge Alberto Arroyo Esquivel	コスタリカの歴史保護を行っている国立公園の例やその保護 についての公共政策の努力について知ってもらう。
エジプト (60分)	歯医者へ通う回数を 減らすには？ —歯医者の概要について—	Ahmed Abdullah Saad	麻酔や歯を削る音、歯医者に行くことが好きな人は誰もい ない。そのため、一般的な歯の病気を歯医者に行かず に自分で扱うことを可能にするための歯科学について話す。
インド (60分)	インドの歴史横断 —古代の文化探検—	Priyanka Agarwal Aniket Gautam Ovhal Rahul Singh Chetana Tamadaddi	それぞれの時代は独特の文化をもっている。古代インドで は、絵画、建築、彫刻のような様々な芸術形態が進化した。 参加者にはインドの古代文化を創造的に学んでもらう。
インド (60分)	学生がもたらす 社会の変革	Avilash Panda Aniket Ovhal Anshul Gour Krishna Krishnadas	世界の学生集団のパワーと学生が果たす役割について学 ぶ。
日本 (60分)	伝統保存の未来	杉浦 黎 正田 亜海 佐藤 琴乃	伝統を保存することによって得られることは何であるのか。 京都の町屋保存の例をはじめとして、日本における伝統建 物や景観保存について紹介する。また様々な国から来た 青年とのディスカッションを通して、日本の事例と各国の 事例を比較し、21世紀を生きる私たちがどのように伝統と 向き合うのかについて、新たな道を、OPY、JPYと共に 導きだす。
日本 (60分)	将来の理想の自動車	川上 美紀 波多腰 優里	・現在の自動車の悩み、将来の自動車への期待(今後どう したら事故が減って安心・安全に運転できるか等)を認 識しあう。 ・自動車と共存するより良い社会を目指して、参加者が安 心・安全運転へ貢献できることを持ち帰り、実践しても らう。

目標は達成できたか	感想
社会的責任について、法人として果たすものだけでなく、倫理観によるものについても理解する機会を設けた。	参加者にとって、知識を得たり共有する良い機会となり、また、事例をもとに、それぞれの社会的責任を共有し合うことを促進することができたと感じている。 指導者は個人としての社会的責任を学び、組織はコンテキストの中での社会的責任を学んだ。
できた。用意した全ての情報を共有することができ、セミナーの最中や終了後に参加者から多くの質問を受けることもできた。	コスタリカ社会におけるツーリズムと保護活動の重要性を参加者と共有することができた。 参加者はこれまで以上に生態系を保護する活動や試み、その改善策について知ることができ、また他の地域との比較についても学ぶことができた。
できた。参加者から多数のフィードバックが得られた。	約30人に及ぶ世界中の参加者に、自分の専門である歯科のことやその薬について説明したことがとても良い経験になり、自信にもつながった。参加者も自身の歯の健康や問題、その解決策まで学ぶことができ、また、実際の医療現場で使われてる道具を触って体験してもらうことで、歯科医に対する恐怖を少しは払しょくできたと思う。
できた。インドについて参加者に知ってもらいたいという目標において、発表後に多くの参加者がインドを訪れたいと口々に言っていたことがそれを証明している。また参加者はアールヴェェーダやインドのスポーツにも大変興味を持っていた。	PYセミナーは参加者が支えてくれるため、大勢の前で話す能力を向上させる良い機会であり、自信をつけることができた。また、セミナー準備の段階で自分の知識も深めることができ、参加者も発表者もお互いにインドについての知らない側面を知ることができた。参加者はインド文化、観光の目的、スポーツについて学び、インドのスポーツである“Kho-Kho”を楽しむこともできた。
できた。参加者から質問を受けることができ、また時間どおりにセミナーを始めることで十分な説明の時間が取れたことは良かったと思う。セミナー中に行ったディスカッションも満足いくものだった。	自分でセミナーを開催するのが初めてだったが、満足がいくものが開催できた。“BE & MAKE”の精神をセミナー中に育むことができ、自信にもつながった。また、参加者をディスカッションに巻き込めたのは良い成果であり、とても満足できた。
<ul style="list-style-type: none"> 参加者は、京都を訪れたことがある、もしくは京都の歴史に興味がある人が多かった。そのため、京都の伝統が失われつつある点に関して、興味を持ってくれた。京町家の置かれている状況、京都市の対策、民間企業の対策について紹介することによって、複数の側面から京町家について知ってもらうことができた。 「京町家の活用方法について考えてみよう」というワークショップにおいて、様々なユニークな提案がされた。しかし、時間が非常に限られていたため、アイデアを出して考えることしかできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> PYセミナーを経て、海外の方の京都のイメージが「伝統、歴史、美しい、最も日本らしい都市」であることを再確認した。また、京都の伝統を美しいと感じてくれている点に関しても非常に嬉しかった。 セミナーの準備の段階で京都の抱える問題点や最近の町家の状況について知り、自身の住む京都への理解が深まった。1時間という短い時間ではあったが、メンバーと準備をしたり、調査したりというプロセスの中で、タイムマネジメントの方法を学んだ。 歴史的で伝統のある町である京都というイメージは非常に壊れやすいと、知ってもらうことができた。また、海外の方が町家に興味を持つことによって、町家が壊されることを防ぐことが可能であることを知ってもらった。
<ul style="list-style-type: none"> 参加者の理想の自動車（安全対策のためソフト素材を使用した車、時速300km出るが障害物の回避が可能な車など）について、国を跨いでクリエイティブなアイデアを皆で共有できた。 全世界のカーメーカーが安全に対する危機感を持ち、自動運転開発に取り組んでいることを参加青年に理解してもらった。開始時間が遅れ、議論のための時間が十分に取れなかった。参加者の国は様々であったため、このセミナーを機に、各国の自動車に対する取組や問題意識について更に議論を進め、理解を深めたい。 	自動運転に対し各国共通で需要が高いが、2020年といった目標（NHTSA基準）に更に期待され、自動運転は業界全体で取り組むべき最重要課題と再認識した。完全自動運転での有事（交通事故）の責任所在については、顧客からしても懸念点と実感した。専門用語は極力少なくし、誰でも分かるような内容にした方が共感を得やすいと思った。扱う内容をもう少し柔軟にし、議論の時間を多めにとるべきだった。モーニングアセンブリーでの急な時間変更に対する柔軟な対応が不足していた。聞き手に質問しながら進めると、会場に一体感が出て進めやすいと思った。外国参加青年は自国に対する理解が深く、質問の内容も具体的だった（Teslaの死亡事故に対する責任の所在等）。日本車のクオリティに対する評価は依然として高い。

主催者の国籍 (開催時間)	セミナーの題名	発表者名	目標
日本 (60分)	意味のある 地域活性化とは何か	安西 智 住岡 尚紀 岡田 沙紀	地方活性化を考える上で必要となるであろう視点をできる限り提供し、ディスカッションを経て自分なりの答えを見付ける。都市過密化、地方過疎化に問題意識を持っている者にとって、今後の活動の助けとなり得る成果物が出るようなセミナーにする。
日本 (60分)	日本の“巧”コレクション	三浦 宗一郎 山下 まりや 原口 宣彦	「ミドリムシ」「宇宙」「トヨタ生産方式」の専門領域で挑戦する日本人の志を発表する。参加者を3-4人1グループに分け、互いに専門領域での活動を共有する。
日本 (120分)	未来の教育とは？ ー21世紀の学びを考えるー	小川 玲 鯉淵 健太郎 泉 光太郎 井場 麻美 栗林 文	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関連する個々人の経験/アイデアを整理し、各国参加者の経験/アイデアを踏まえながら、これからの教育について思考を拡散する。 ・協働で実践案を作成することで、拡散した思考を収束させ、行動イメージを作る。
日本 (60分)	失敗談をシェアしよう	三浦 宗一郎 大西 拳伍 住岡 尚紀 嵩本 直萌	参加者それぞれが、「過去の失敗エピソードのシェア」と「乗船中及び下船後に行う次の挑戦の宣言」を行う。(可能であれば、互いの挑戦実行の結果を確認し合う場を設ける)
日本 (60分)	ワークライフバランス	北田 彩香 三浦 宗一郎 島田 楓 山本 勇貴	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な国籍の参加者とのディスカッションを通し、ワークライフバランスについて各国が抱える問題をシェアし、それに対する解決に向け理想的なワークライフバランスを考える。 ・このPYセミナーを通じ、「働くこと」「生きること」についての価値観を改めて見つめ直し、そこから参加者自身がどのようにして豊かな人生を営むのかを考え、自分たちができることは何を明確にし、これから社会を担う世代としてその実現を目指す。
日本 (60分)	アクション・プラン・プレゼン セミナー	嵩本 直萌 仙波 菜野子 栗林 文	参加者が自分自身の事後活動について発表する機会を提供すること。それに加え、このセミナーは参加者たちが同じ興味を持った仲間を見つけ、プログラム終了後に協力し合えるような雰囲気作りをする。

目標は達成できたか	感想
<p>地域活性化のトピックに関して議論する良い機会を設けることができた。しかし、地方過疎化に対する具体的な対応策にまでたどり着くことができなかった。</p>	<p>様々な価値観を持つ聴衆に対してアイデアを共有することが難しいと感じた。日本人だけが相手であれば不要と感じるような内容も、前提が異なる相手に説明するとなると大変だった。経験を通して価値観の異なる人とのコミュニケーションの難しさを改めて感じた。セミナーに参加した人には、地域に目を向ける重要性を伝えることができた。SWYに参加する国際的な人たちが集まる中で、あえて地方に目を向ける機会を作ることができたのは有意義であったと感じる。</p>
<p>できた。それぞれの分野について発表と質疑応答を行い、発表者が伝えたい内容を聴衆に伝えることができた。</p>	<p>発表者は、各企業団体の内部にいた(いる)人たちなので、通常ではなかなか得られない内部にいるからこそ分かる詳しい情報を参加者に伝えることができたと感じる。</p>
<p>実施時間のうち、半分程度をディスカッションの時間にあて、参加者各国における現状を把握するためのディスカッションを促進できた。事業実施期間中～後に情報交換ができるネットワーキングを促進できた。以上の理由により、セミナーの目的は概ね達成できたと思う。</p>	<p>60分の制限の中で、参加者のニーズを拾い、知識や関心のバランスをとりながら講義とディスカッションを実施することや、参加者のニーズに合わせて、セミナー内容を柔軟に対応させることを学んだ。また、メンバー間での連絡・協力体制の構築も学んだ。参加者は日本の教育に関する全般的、基本的な知識や、将来にわたって相互に情報交換のできるネットワーキングを得た。</p>
<p>セミナーでは多くの参加者が失敗エピソードをシェアすることができ、終盤ではそれぞれが次なる挑戦に向けての宣言を行うことができた。</p>	<p>参加者がそれぞれの過去の様々な失敗エピソードをメインにシェアすることができた。中には、セミナー中に涙を流す参加者もいた。エピソードを聞いたり、シェアしたりする中で、失敗から多くのことを学ぶことができることを改めて実感するとともに、失敗を恐れずに様々なことに挑戦をしていく決意を参加者でシェアすることができた。</p>
<p>本セミナーの目標は達成することができた。理由は以下2点が挙げられる。 1点目は、各国の外国参加青年からその人がどのように働いているのかを共有してもらっただけでなく、日本参加青年の中からも様々な働き方をする人からそれを共有してもらえ、個々の働き方の多様性が如実に現れ、お互いにとても刺激をいただいた。 2点目は、こちらから提供したアクティビティを通じて、自分の人生についてよく考えてもらい、その後に活発な意見交換を行うことで、個人にとって理想のワークライフバランスとは何かを言語化させることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者側から有益な情報を提供する場としてではなく、参加者同士のインタラクティブな意見交換の場として、とても有意義な時間を創ることができたと思う。 ・国単位での違いというよりも、どの国に住んでいるかにかかわらず、何の仕事をしているかによっても個々の働き方の多様性がとても見受けられた。国によって働き方に違いがあるのではなく、個人によって働き方は異なるという意見が見受けられた。 ・参加者からはそれぞれが自分の人生において何を大事にしているのか、それを実現できるようなワークライフバランスを自ら設計しマネジメントしていくことの大切さを学んだとの声が聞かれた。このセミナーによって参加者自身が人生を見直す機会になったとともに、今後の人生設計について考える場を与えることができたと思う。 ・この事業に参加すること自体が、多くの参加青年にとって人生におけるなんらかのターニングポイントとなる可能性を秘めている。参加青年の中にSWYに参加するために仕事を辞め、帰国後にキャリアを再スタートするという人も少なくない。本セミナーを通じて、他の参加者のワークライフバランスを参考にしながら、自分の人生を見つめ直し、理想のワークライフバランスを追求することで、豊かな人生をどのようにしたら送ることができるのか考える良い機会になったと思う。
<p>外国参加青年も巻き込んだセミナーとなり、多様性のある事後活動計画をシェアする場となったところは達成できた。発表した事後活動計画に対して、フィードバック、振り返り時間が少なくなってしまうところは達成できなかった。</p>	<p>このセミナー運営を通して、コミュニケーションを密にとることの重要性を再確認した。プログラム開始前はスカイプなどを利用してこまめに連絡を取っていたが、乗船後、インターネットが使えない状況の中でコミュニケーションが減ってしまい、その結果様々な変更点などに臨機応変に対応することが困難となった。この経験をいかし、自ら積極的に行動する重要性を学んだ。また壇上で発表したメンバーは下船後のプランやSWYでの経験を具体化する機会を得た。このセミナーを受けることにより、参加者は仲間の考える事後活動について、より多くのアイデアを知ることができ、参加者自身が事後活動を考える際のブラッシュアップ、モチベーションの向上につなげることができたと思う。また発表者に対してポストイットにフィードバックコメントを書くことで、相手をエンパワーする体験を得ることができたと思う。</p>

主催者の国籍 (開催時間)	セミナーの題名	発表者名	目標
日本 (60分)	働く女性を取り巻く環境	赤沢 美優	参加者が考える性平等について経験を共有する。性差別のない社会を作るためにディスカッションを行う。「フェミニズム」とは何かを定義する。
日本 (60分)	夢の学校を作ろう!	菊間 大輝 庄司 瑞季	現在流行しているインクルーシブ教育についての理解を深めるとともに、今後多種多様な子供たちが共に学ぶことができる夢のような学校の作り方を学ぶ。
ケニア (60分)	チェンジマネジメント	Ian Andrew Singoro	参加者個人の学校、仕事での成功を高めて自己意識の向上を助ける。人生での意味のあるゴールを考え設定し、個人の質をポジティブに成長させる。つまり、自分の中での競争心を高め、チームの中での専門的な仕事の効率を向上し、多様な文化の中でも生きていける技を身につける。
ケニア (60分)	タイムマネジメント	Beth Awino Ogonji	無駄な時間をどう避け、人生のゴールを達成するための効果的な時間の計画性を参加者に学んでもらう。
ニュージーランド (60分)	ホーム —私たちはどこからきたのか—	Aarie Tamatoa Miron Habte Miron Habte	1) どれほど私たちが故郷について個人的な主観を持って話をするのが重要かディスカッションする。 2) 参加者が自身のアイデンティティや所属しているものの価値をどれだけ示しているか文化的な例を挙げて調査する。 3) ユースエンパワメントやコミュニティの発展について議論する。歴史的に多様な文化を持っている国であるがゆえに、自分たちの経験がどのように他人に影響を及ぼすのかを共有する。
ニュージーランド (60分)	私はモアナ —歴史的な太平洋探検: 過去、現在、未来—	Tawhana Chadwick	参加青年に「太平洋探検」の歴史と現在への影響、未来への適合性を理解してもらおう。
ウクライナ (60分)	現代ウクライナの 環境問題と その解決方法	Kozin Ievgen Kotenko Pavlo	1991年の独立以降におけるウクライナが直面した環境問題のプレゼンテーションを行う。問題解決と国の政策の変化にどのような対応がとられたかや、ある青年によって企画、実行された活動についてディスカッションする。目標は参加者が青年によって又は公的に行われた自国の活動の例を共有しながら「どうしたら環境保護政策がより効果的なものになるか」という議題についてディスカッションすることである。
ウクライナ (60分)	ハイブリッド戦争 —軍事力を持たない次世代 の船窓への関わり方—	Anna Bobino Alisa Berezutska	ハイブリッド戦争に関する用語や起源、難しさを知ってもらおう。現在約30あるハイブリッド戦争のうちのほとんどは自然に関することである。どうしたら情報操作をされないか、インターネット上で流れる誤った情報からどのように区別するかを投げかけ話し合う。

目標は達成できたか	感想
できた。参加者全員が自分の経験や意見を共有してくれたので、有意義な時間だったと思う。	自分にとって初めての英語でファシリテーターをする機会だったので、まとめるのが難しく、反省点も多い。セミナー後に参加者から感想やアドバイスを聞いたので、今後参考にしたい。
意見を共有する時間を多くとることができたので達成できた。	国際的な視点を持っている人はインクルーシブな考え方が強い。インクルーシブ教育が主流になっている今、とても大切なことだと思う。リスナーは障害を持った人の視点から学校について考えることで、インクルーシブ教育の大切さを感じてくれたのではないかなと思う。
できた。セミナー終了後セミナー参加者から肯定的な意見を多く受け取った。	これまで大勢の前でプレゼンテーションを行う機会がなかったため、PYセミナーを行ったことは非常に良い経験になった。参加者の意見の違いを共有できたことは良い発見であった。お互いに教える学ぶことができたと感じている。セミナーを聞いていた参加者は、異なる環境で行われるチェンジマネジメントについて学ぶことができたはずである。このセミナーで学んだことを元に、効率的にチェンジマネジメントを行えるようになったと考える。
できた。決定事項の優先順位をつける大切さ教えることによって、遅延が発生することや誰か一人が遅れたことによるストレスを発生させない方法を参加者は学ぶことができた。また、セミナー後のフィードバックにより、このセミナーが成功したと考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的な経験を通して受けたトピックの知識を、興味を持っている人に際して多少なりともシェアすることができた。 ・生活の中で成し遂げたいことを管理することがなぜ重要になるかという教訓を参加者は得ることができた。
会話を促進することはできたが、参加者からのフィードバック不足のため、今回設定していたセミナーの目標を達成することに成功したのか、評価することが困難であった。	世界の様々な地域出身の人々とのようにして複雑なトピックを議論するか、また予想していなかった技術的な問題に対する適応能力が身に付いた。様々な意見や経験を総括的に含めることによって、HOMEに対する捉え方において、世界的な視野、自分たちの憶測や考え方に挑戦することができた。自分たちは参加者が故郷、属性、アイデンティティは他人によって、異なった形で定義づけられているという事に気付いてくれたのではないかと信じている。
おそらくできた。公式なフィードバックを受け取っていないため断言するのは難しいが、参加者からのフィードバックによると目標を達成したと考えられる。時間が限られていたということもあり、自分たちが伝えなかった全てのことを伝えるのは不可能であった。	ほとんどの参加者が聞いたこともない、ましてや考えたこともないような「ワカ」についてのプラットフォームを提供できた。自分たちは大勢の前で発表するという経験をできただけでなく、時間が限られた状況下で、どのように時間を管理するのかについても学んだ。参加者は、太平洋から見た視点に則り、世界中のどこにおいてもどのように星を利用して航海を行い、自分たちが目指す道を探していくのかについての知識を得ることができた。最終的に、「ワカ」とは何かを知ってもらうことができた。
できた。ウクライナの環境問題の歴史と青年が行った実際の活動を紹介することができた。また、参加者に興味を持ってもらうために国ごとの環境に関するデータを比較した。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの練習を念入りに行い、スライドのデザインも工夫した。準備した情報とプレゼンテーションをもとに参加者とディスカッションをしたことで、SWY参加国の環境の現状について理解することができた。 ・参加者はウクライナと自国の環境状態について比較することで、ウクライナの産業と環境について知ることができた。発表したウクライナでの青年たちの活動は価値のあるとても重要なことで、将来参加者たちがそれぞれの国でも実行することができるものになったと思う。
セミナーの初めのうちはハイブリッド戦争について誰も知らなかったが、世界で起こっている実際の事例を通して説明するうちに参加者は今何が起こっているのかを理解し始めたように思う。一番達成したと思うことは、参加者が情報操作されたニュースやプロパガンダの被害者にならないための方法を学んだことである。	この複雑で、かつ重要な内容に関して知識が全くない人たちにセミナーを開くことはとても良いチャレンジだった。特に、用語の説明や学術的な内容を英語で簡潔に説明することが苦勞した。しかし、このセミナーを通して様々な知識やバックグラウンドを持った人たちに言葉や知識を伝える経験を得ることができた。

スキルセミナー

スキルセミナーは、以下の成果をねらい、2回実施した。
参加青年は各自、興味のあるセミナーを受講した。

- 参加青年同士が、研修にいかせるスキル（ディスカッションのコツやプレゼンテーションの方法論など）を教え合い、また学び合うことで、参加青年一人一人が、自身に必要なスキルに気付き、研修中にそのスキルを磨く

- 事後活動に役立つスキル（ファンドレイジングの方法やキャンペーンの運営方法など）を学び合うことで、参加青年が事後活動に必要なスキルを磨き、そのスキルをいかして帰国後、社会貢献活動に取り組むことができるようになる

スキルセミナー一覧

セミナーの題名	発表者名	ゴール
ZENの精神セミナー The spirit of "ZEN"	関谷 昂 森 あさか 林 義明 山下 まりや	座禅、禅の考え方をすることで、周りに惑わされることなく、心の平静を保つことができるすべを身に付けてもらい、船上での生活の中で、ストレスを感じた際にうまくコントロールをするスキルを学んでほしい
ビジネス関連スキルセミナー Business skills	原口 宣彦 川口 健太 越河 真子 太田 春菜 丸山 梢 Guiherme Honorio	<ul style="list-style-type: none"> 参加者にロジカルな考え方やイノベティブなアイデアの出し方の一例を体感してもらう。 議題（今回であればヘルスケア業界）に関する各国のビジネス事情を聴取する。
通訳を身近に感じられる 体験型ワークショップ Interpretation workshop	井場 麻美 川真田 薫子	<ol style="list-style-type: none"> 通訳についての理解を深める。 自分の通訳の体験や経験等につき共有する。 ロールプレイを通じて、実際の通訳（逐次通訳、同時通訳）を体験する。
効果的な外国語（英語）学習法 How can we learn a foreign language more effectively?	鯉淵 健太郎	このセミナーでは、どのようにすれば外国語をより効果的に学ぶことができるのか、応用言語学（第二言語習得）を基に考える。
動機付け面接法 Motivational interviewing	足立 元	<ul style="list-style-type: none"> 両価性のある問題を抱えている人の話をどのように聞き、薬物依存のような悪い習慣を止める助けをどのようにするかを学ぶ。 基礎的なコミュニケーションスキルの向上（特に一対一の会話）



目標は達成したか	具体的に教えた内容
<p>弓道や座禅の体験を通して、呼吸法や瞑想の仕方等を学んでもらえた。セミナー後、幾人かから座禅のやり方を知れてよかった、実際にやる事ができて良かったという声を聞いた。</p> <p>セミナーの前半は禅の概念を紹介することに使った。なるべくわかりやすいようにと気を付けてはいたが、OPY にとっては理解が難しかったように思える。</p>	<p>今回のセミナーを開くに当たって、今まで漠然としていた禅の考え方をもう一度確認し、他人に説明できるように学びなおした。そこから新たな発見をすることも多く、自分自身にとっても多くの学びとなった。また、大切にしていたはずの考え方を疎かにしてしまっていたことにも気づき、もう一度自分の生活態度を考え直す機会にもなった。参加者からの感想を聞いたところ、自分の国で禅寺に通っている OPY がいたり、これから仏教の考え方を学んでみたいという声があった。</p>
<p>当初目的としていたコンサルティングの考え方の一つである問題を細分化させて解決策を考えるロジックツリーの方法を簡易的にはあるが伝えることができた。参加者にビジネスの世界の一端を体験してもらおうと同時に、各国のヘルスケアシステムの違いなどもシェアしてもらえて、本来の一つの狙いも達成できたと感じている。</p>	<p>「アイデアソン」を実施すること自体が挑戦だったが、小グループ毎に本質をついたアイデアが生まれ、発表者側も参加者側も実りある学びができた。人間の三大欲求である性教育・睡眠・食についてビジネスアイデアを出してもらい、短時間でイノベーションを起こす現場を見ることができた。参加者とは今後も FB グループで情報交換するということが決まり、今回のセミナーを今後の可能性につなげられて大変嬉しく感じている。</p>
<p>① 通訳 (Interpretation) と翻訳 (Translation) の違いを通して、通訳についての理解が深まった。</p> <p>② 発表者の通訳経験、参加者の通訳経験の共有を通じて、どんなに小さい出来事からでも通訳経験になり得ることを実感し、下船後の通訳という仕事への意欲が高まった。</p> <p>③ 3人1組のロールプレイを通じて逐次通訳を体験し、実際の通訳業務の理解につながった。また、セミナー最後には同時通訳に挑戦し、通訳という仕事の有用性かつ困難を認識してもらえた。</p>	<p>本セミナーを通して、通訳という仕事をもっと身近に感じてもらえるだけでなく、自分にも通訳という仕事ができるという自信が持てたと思う。通訳は、外国語運用能力だけではなく、母国語の運用能力も問われるため大変難しい職種ではあるが、今回の学びにより、国際交流、更には国際貢献のために通訳というツールが利用されることを期待する。</p>
<p>最低限の目標は達成できたが、機材の不備等の問題で、セミナー実施時間が40分になってしまい、話したいところが十分に話せなかった。セミナーの参加者が基本的な第二言語習得に関する仕組みを理解し、それぞれに必要な具体的なメソッド等を学んでくれたら幸いである。</p>	<p>言語学習には大きな誤解がたくさんあり、それらの一部をこのセミナーで解くことができたと思う。言語習得の不思議と奥深さについて知ってもらったと同時にグローバル化社会における外国語スキルの重要性について伝えることができたと思う。</p>
<p>基本的なスキルについては、解説はできた。目的は最低限は達成できたと思う。実際にはもっと、実践練習で模擬面接をPY 同士でやってもらいたかったが、時間の不足のためできなかった。</p>	<p>英語でのプレゼンテーションは初めてで、最初はかなり緊張したが、話し始めると思ったよりも落ち着いて進めることができた。タイムマネジメント、グループワークの取りまとめの方法は、改善すべきと感じた。発表を試みたことが、自信につながった。</p> <p>学んでもらえたと思うことは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動機付けをするのではなく、それぞれの中にすでにモチベーションは存在していて、それを探ることが大事なこと ・人を動かそうとするときに動いてほしい方にプレッシャーをかけるよりもむしろ逆の方向に抵抗する心理が働くこと ・プレッシャーを与えるよりも、相手の価値観を探し受け入れてあげることで人は動機づけられること、などである。

セミナーの題名	発表者名	ゴール
未来のための青年育成 ～あなたの志とは？～ Youth Development for our Future "What is your AMBITION?"	泉 光太郎 山本 勇貴	参加青年がお互いに協力して新しい企画や活動を行う前に「自分の志について」考え、お互いにシェアをする。そしてすべての参加青年がグループを作り、志のマッチングを行うとともに船内あるいは下船後の活動の企画をつくる。最後にそれをプレゼンし、周りに発信できる状態にする。
メディアリテラシーを学ぼう Media literacy	佐竹 優輝 村瀬 友奈 佐々木 珠理	私たちは皆バイアスを持っているという事実に気づき、危機感を抱かせ「批判的思考」とは何かについて考えてもらうこと。
The innovation challenge	Mohamed Abdalazeem Sandra Khalil	セミナーでは社会起業家の成功事例を示し、ソーシャル・イノベーションと社会問題への革新的な解決策を考え出すプロセスについて詳しく知ってもらう。
Com-Com / Compassionate Communication	Luis Jimenez	共感コミュニケーションに関するスキルを提供する。
Exploring, defining, and improving our professional selves: the inseparability of the personal and the professional	Álvaro Didio Paula Lobão	このセミナーでは専門家及び個人としての自分自身に関する最新のアイデアを共有する：それぞれの自己の検討、定義、向上の手段等。また、専門家及び個人としての成長及び、それらの成長が互いに及ぼす影響について話すための安全なスペースの提供がねらい。
Self care & Mental Health	Estefania Borja 中村 友梨香 鹿目 将至	日常的に活用できるセルフケアとリラクゼーションの方法を説明、発表する。
Communication Skills	Caroliyne Okemwa	どんな環境でも効果的なコミュニケーションが取れる方法を説明する。
NO hate speech online	Lidiia Kozhevnikova Alisa Berezutska	オンライン・キャンペーンのヘイト・スピーチの要点を説明し、自らのコミュニティにおけるヘイト・スピーチと闘う手段を見出す。
Embracing the conflict through the Alternative Dispute Resolution: a bet for the human capacities	Alejandro Hernandez Bolanos	PY 間における代替的紛争解決ツールの活用を促進し、様々な環境で紛争管理が必要な日常の場面で活用してもらう。
Blooming your start up	Anant Raheja	スタート・アップ・ドメインの機会についての意識啓発を図る。さらに、資金調達及び収入獲得により、自身で起業するのに必要なメソッドとスキルを理解する。

目標は達成したか	具体的に教えた内容
<p>セッション1では自分の在りたい姿や目指している社会などをワークシートに落とし込み、自分の志を見つけた。 セッション2ではワールドカフェの手法を用いて、SWYでの自主活動や事後活動について個人プランニングを行った。 セッション3では個人プランニングの深堀を行った後、具体的なSWYでのアクションやSWY後のプロジェクトなどプロジェクトプランニングワークを行った。 セッション4ではプロジェクトをプレゼンした。発表はSWY後の活動がメインだったが、SWYAAでの活動にもいかしていけるようなプロジェクトもあったため、非常にセミナーのゴールに近いセミナーができたと思う。</p>	<p>参加者からは「今まで様々なセミナーやトレーニングを受けてきたが、ツールがわかりやすくディスカッションの話題にもなり非常に役に立った」という声があった。少人数のワークショップではタイムラインどおりにすることより参加者のストーリーを聞き、参加者の呼吸に合わせたワークショップをライブ的につくる経験をした。これは今後の活動にもいかしていきたい。</p>
<p>できた。SWYに参加しているプロのファシリテーター等にアドバイスを請い、「アイデアは私たちが、しかしセミナーは全員で」つくることを心がけたゆえ40名超の参加者と共に温かい時間を過ごすことができた。</p>	<p>主催者として「適度」なストレスは最適なパフォーマンスをもたらすということが学べ、良い経験となった。 参加者は、批判することの大切さ、その手法を学んだ。また、情報を「手に入れる、比べる、考える」ことの大切さを学んだ。</p>
<p>ソーシャル・イノベーションのためのツール及び社会起業家の成功事例を発表し、参加者からフィードバックを得ることができたので、ゴールは達成できた。</p>	<p>参加者同士の交流や彼らが紹介したアイデアから、多くを得ることができた。プロジェクトを企画、主催する際に活用できるソーシャル・イノベーションとツールについて紹介した。世界で大きな影響力を持ち、持続可能な事業を起こした社会起業家の成功事例についての発表もあった。</p>
<p>体験活動を通じて学びを得ることができた。</p>	<p>参加者は満足し、喜んでいて、活動を見直す必要があるが、主な目標は達成できた。彼らは共感するスキルの向上方法を学んだと思う。</p>
<p>達成できたと確信している。スキルセミナーに関する良いフィードバックを含め、参加者から成果に対する肯定的な意見を得た。聴衆一人一人に私たちの目標が本当に達成できたのか、彼らが求めているものを彼らに提供することができたかについて質問した。全てのアイデアを共有できたわけではないが、共有したアイデアは私たち全員にとって当面非常に重要なものであるのは間違いない。</p>	<p>スキル・セミナーの参加者は現在・将来の仕事について自身の思いや、不安、懸念について述べる機会を得たと思う。グループやペアでのディスカッションにより、大勢の前で自分をさらけ出すことなく、「匿名」の間接的な支援を得ることができた。他者の意見を知ることによって、参加者は不安への対処法を広げたり、場合によっては解決法を見出した。</p>
<p>参加者から好意的な反応を引き出すことができ、セッション終了後も私たちのものに質問に来てくれた。</p>	<p>主催者は人前でスピーチをする自信を深め、運営スキル及びリーダーシップ・スキルを向上させることができた。 参加者は日常のストレスへの対処法を学んだ。 また、精神と心のセルフケアの違いを特定した。</p>
<p>参加者は積極的に私に質問し、私からの質問に答えてくれたので、目標は達成できたと思う。</p>	<p>教えることで学びを得た。対人コミュニケーションについて参加者と共有することで、彼らからも多くのことを学んだ。実践を通じてファシリテーション・スキルの向上も図ることができた。 参加者は効果的な対人コミュニケーションスキルを身に付けることをねらいとして、様々なコミュニケーションスキルを学んだ。</p>
<p>ヘイト・スピーチに関する経験について参加者とディスカッションし、ヘイト・スピーチへの積極的な取組について話した。</p>	<p>様々な国籍の聴衆の前で、ノー・ヘイト・スピーチのオンライン・キャンペーンについてのスピーチをしたのは初めてだった。ウクライナ語で行った経験しかないため、私たちにとって良い実践になった。</p>
<p>達成できた。実践演習や二国間交渉、ピース・サークルを実施したことで、参加者は日常生活の紛争状況を解決する際に役立ててくれるだろう。演習を通じて参加者は自身の紛争解決者としての能力を知り、それをどのように向上させるかを理解する助けになったと思う。</p>	<p>多様な言語の壁を持つ多国籍グループのファシリテーターとしての経験を通じて、彼らへの共感を深めることができた。 聴衆は、平和構築と修復的正義の理論的枠組みとして、紛争がどのようにして起こるか、なぜ解決する必要があるのかを含む紛争の基本情報を得た。</p>
<p>全ての参加者が積極的にエクササイズに参加し、肯定的なフィードバックを返してくれたので、目標は達成できたと感じている。</p>	<p>この経験を通じて各国のスタート・アップに対する認識への理解を深めることができた。さらに、セミナーを通じて、このテーマを伝える自分の能力に対する自信をつけることができた。 聴衆はスタート・アップについての新たな情報を得ることができたと感じる。また、彼らは自身のアイデアを基にどのように起業するかについての基本を理解した。</p>

セミナーの題名	発表者名	ゴール
Youth role in disaster	Matelita Houa	セミナーでは災害を特定し、防災対策と復興への取組について考える。
Peace: Through Non-violent Resistance	Sandra Ivanov Pania Newton Abby Fisher Matthew Renata	非暴力抵抗の原則と価値を紹介し、ニュージーランドにおける平和運動の例を共有、青年が自国で非暴力によって社会を変えるためのスキルを伸ばす。
The art of storytelling	Sareema Husain Moussa Sene	ストーリーテリングの古典的な構造及び技法について学んでもらう。
Entrepreneurship and strategic planning applied to social organizations	Guilherme Honorio Fabio Fabro	ビジネスと起業の基本概念を伝え、社会組織や小企業でいかせるシンプルなツールを提供する。
Negotiation Skills	Diana Simiyu Carolyne Okemwa	セミナーでは交渉の基本原則と持続可能な方法で交渉を行う必要性を学び、様々な状況で交渉スキルをいかせることを目指す。
Evolution of thinking society and social	Mykhailo Zhernakov Anastasiia Stasiuk Svitlana Yarova	思考パラダイム（パターン）とそれが社会の現代化の能力にどのように影響するかを認識するための情報とスキルを提供する。

目標は達成したか	具体的に教えた内容
達成できた。災害に関してすばらしい意見と質問が出た。	災害を経験した国、していない国について新しいアイデアを得た。エジプトとカナダは太平洋地域とは異なる災害を経験している。
非暴力的抵抗の基本理論について分かりやすく伝え、参加者は社会に変化を起こすための重要な要素を理解した。平和的な抵抗運動に青年として関わっている体験談を発表者から直接聞いたことで、参加者はモチベーションと意欲を得た。	主催者として、ニュージーランドにおける非暴力的抵抗と自国の歴史における非暴力的抵抗運動の重要性についての理解を深めた。PYはニュージーランド団の実例とともに、ニュージーランドにおける歴史的な青年主導の運動などの非暴力的抵抗について重要な理解を深めた。彼らの知識は、セミナー実施後に全員が自分の考えを書いた「平和のパナー」として展示された。
達成できた。セミナーは参加者から大好評で、多くの学びを得たという意見をもらった。	ファシリテーターとして、自分たちの経験を聴衆と共有し、彼らの経験について聞く機会を得た。彼らが日常生活や仕事において、更に自信をもってストーリーテリングをツールとして活用してくれることを願っている。
達成できた。セミナーの内容を網羅し、参加者から質問も出た。	スキルセミナーの実施は、発表者が知識を強固にする良い方法だった。ビジネス・モデルや戦略的企画について、また計画をアクションにする方法について学んでもらえた。
達成できた。PYはセミナーに対して好意的な反応を示し、交渉の基本原則とステージについて知ることができた。各自の交渉スタイルを分析し、Win-Winで自信を深めることができた。	私はこの経験を通じて自信を深めただけではなく、人前で話すためのスキルを向上することができた。聴衆は交渉の様々なステージについてや、交渉の際に対人スキルをどのように用いるかについて学び、人の話を聞いたり、聞いてもらうためのスキルを伸ばし、様々な状況で交渉スキルを用い、敵対者と交渉し、受け入れ可能な解決策を交渉し、良い成果を引き出すための戦略を発展させるため能力を向上させた。
達成できた。時間が短く、詳細な説明はできなかったが、肯定的なフィードバックや質問をもらった。	参加者は思考の評価と現代化に関する新たな知識とスキルを得ることができた。

事後活動セッション

ねらい

- 参加青年が内閣府の実施する青年国際交流事業、IYEO 及び SWYAA について理解を深められるようセッション及び自主活動に取り組む。
- 事業終了後、IYEO や SWYAA 等を通じて、様々な社会貢献活動にどのように取り組めばよいかを参加青年に伝えるために、日本及び外国の「世界青年の船」事業既参加青年がこれまで行っている事後活動の事例を紹介する。
- SWYAA のネットワークや既参加青年が所属する団体（NPO 団体等）を活用・連携し、充実した活動に発展させていくことの重要性を伝える。
- 参加青年が事業後に、陸上、船内で学んできたことをいかして自国で何ができるかを考え、具体化するための活動案を作成し、ほかの参加者と共有するためのサポートをする。
- 既参加青年及び IYEO の代表として、参加青年と事後活動についての意見交換を行うとともに、参加青年の船内活動についてのアドバイス等を行う。

活動内容

3名の既参加青年代表がホニアラ（ソロモン諸島）から晴海（日本）までの区間に乗船し、2月24日・25日の二日間にわたり、「事後活動セッション」を開催した。

本セッションは、参加青年が帰国後、各国で事後活動に携わるに当たり、どのように事後活動組織や、SWY ネットワークを活用することができるかを伝えること、また、個々人が取り組もうとする活動を実現させるうえで、参加青年同士で協力できることや、事後活動組織などが協力できることは何か考えさせることを主たる目的とした。

上記目的を達成するため、初日は大きく以下四つのパートに分けてセッションを開催した。

- 1) 本事業の目的と期待される成果とは何か
- 2) ネットワーク（国・地域レベル）を活用した事例紹介
- 3) SWYAA 国際連盟の紹介とそのネットワークを活用した事例紹介
- 4) 参加青年たちの現時点での事後活動計画の共有

また、本セッションはできる限り参加青年の主体性に委ねることが望ましいとの考えから、事後活動につながり得る活動にすでに取り組んでいる参加青年や、具体的な計画を立てている参加青年を中心とした委員会を結成し、二日目は、彼らの企画・運営で進行した。セッション前半は実行委員が現時点で企画している事後活動計画及びその活動をどのように事後活動組織や SWY ネットワークと連携するかについて発表した。後半は、参加青年同士が関心のある分野に応じてグループを作り、互いに情報共有や事後活動の予定を共有することを趣旨としたスピード・ネットワーキング・セッションが開催された。

《セッションスケジュール》

2月24日（1日目）

9:30 - 9:50	本事業の目的、期待される成果とは何か（深作）
9:50 - 10:10	ローカルネットワークを活用して実施した事後活動の事例紹介（山形県 IYEO）（小林）
10:10 - 10:30	SWYAA 国際連盟の紹介とそれを活用した事例紹介（齋藤）
10:30 - 10:50	休憩
10:50 - 11:30	参加青年同士による現時点での事後活動計画の共有（小グループ）
11:30 - 11:55	参加青年による事後活動計画の全体発表
11:55 - 12:00	総括、セッション実行委員（参加青年）の紹介

2月25日（2日目）

9:30 - 9:45	イントロダクション
9:45 - 10:40	参加青年、既参加青年代表による現在の取組の発表
10:40 - 10:55	休憩
10:55 - 11:55	スピード・ネットワーキング・セッション
11:55 - 12:00	総括

事後活動セッション 1日目

◇既参加青年代表発表概要

深作は主に、本事業の本来の目的は何か、また「世界青年の船」事業が継続されるうえで期待されている成果は何かについて参加青年と共有した。本事業の予算を別の国際協力事業等に使うのではなく、未来のリーダーたる青年に投資することの意義は何か、参加青年たちに託された日本国民の思いはどのようなものかに触れ、事業終了後、各参加青年が活発な事後活動を展開することが本事業の目的の一つであり、最大の成果であるということをお伝えした。また、発表の最中に安倍昭恵総理夫人から参加青年へのビデオレターを紹介し、「本事業の本当の成果は皆さんの事後の活動の中にあると信じています」というメッセージを届けた。

小林は山形県 IYEO に所属することで、下船後も内閣府の青年国際交流事業に関わり続けている。今年度はトンガ・ケニア両国の参加青年が地方プログラムで山形県を訪れ、山形県 IYEO は地方プログラムのコーディネーターとして視察先及びホームステイ受入先の調整役を担った。この活動は内閣府事業の事後活動として実施しているが、加えて本年は山形県における国際交流活動に力を入れていることが紹介された。「世界青年の船」事業の参加青年は、下船後に日本国内に 18,000 人以上いる IYEO 会員と、世界では 7,400 人以上いる既参加青年と共に活動をするチャンスがある。ぜひ地元にも世界にも広がるこのネットワークを最大限に活用してほしいと話した。

齋藤は SWYAA 国際連盟について話し、世界に広がるネットワークと災害復興支援や「ホームステイ+1」などの共通活動、各国で実施している活動事例について説明した。また、シリアの難民支援、スペインにおける日本文化の普及、19歳の時点で政治の分野で活躍を始めた個人の事例などを紹介した。また、自身の活動の一つの事例としながら、プロジェクトを立ち上げる手順について説明をした。その中には、同じ志を持つ仲間さえ見つければ夢は実現する。計画を綿密に立てるよりも「小さく産んで大きく育てる (Lean start)」という考えからまずは行動に移してみると良い。多くの人に計画を話すことで情報と協力を得られる。そして、事後活動をやらなければならないという考えより、やりたいことを実現させることで、自分のパッション (情熱) が事後活動につながれば良い、というメッセージが含まれていた。

セッションの後半は、現時点で計画している事後活動計画についてワークシートを使って書き出し、希望する参加青年がその内容を全体共有した。

◇参加青年の事後活動計画案の抜粋

- ケビン・コバヤシ (カナダ)：既参加青年がビジネスやプロフェッショナルの分野ごとにつながるようなプラットフォーム (アプリケーション) を作りたい。このプラットフォームを活用することで、回生を超えたプロフェッショナルのつながりを作り、事後活動がより幅広く展開されるきっかけとなることを目的とする。
- ガブリエル・トレンブレイ (カナダ)：支援を必要としている SWY 関係国で活動をする。特に男女平等や異文化理解の分野において活動し、必要な経費は女性のエンパワメントの観点から、手工芸品を販売して得たいと考えている。
- サティア・スウェイン (インド)：特に政治の分野で活動しており、社会に変革を起こしたいと考えている。インド国内だけではなく、SWY29 で知り合った各国のメンバーと連携して、世界平和のために変革を起こしていく。
- 安西智 (日本)：① 11 か国で「ホームステイ+1」を実施したい。② 2020 年の東京オリンピックの年に何かイベントを実施し、その後、4年ごとにそのイベントを継続したい。
- 鈴木香央里 (日本)：日本の田舎の魅力を日本人だけではなく、外国人に対しても発信する。そのために、このネットワークを使って、人々が興味を持っていることを調査する。
- 小澤有里子 (日本)：日本の高校生の意識を変え、もっと広い視野で将来を考えられるような「羽」を与えたい。
- 嵩元直萌 (日本)：地元の沖縄において異文化交流ツーリズムを展開し、沖縄の人が海外に触れるきっかけを作るとともに、沖縄が抱える様々な課題について、沖縄を訪れた外国人と共有する場を作りたい。
- イヤロスラブ・ウーチェル (ウクライナ)：ウクライナで既参加青年が参加する「平和会議」を実施し、「ホームステイ+1」を行う。
- リディア・コジェブニコヴァ (ウクライナ)：国内の紛争地に千羽鶴を届けたい。活動を国内に留めるのではなく、できる限り多くの国や地域の人を巻き込み、思いを届けるだけでなく、日本の文化を広げることも一つの目的とする。

セッション終了前に、翌日のセッションが参加青年で構成された実行委員によって企画され、運営されることを発表し、実行委員を紹介した。

事後活動セッション 2日目

セッション二日目は前述のとおり、実行委員が企画・運営した。実行委員の選出に当たっては、既参加青年代表が数名のナショナル・リーダーや参加青年にヒアリングを行い、現時点で具体的な事後活動計画を立てている参加青年又は既に自国や地域ですでに活動を展開しており、今後も事後活動の一環として活動を継続する可能性のある参加青年を選出した。そして以下、9名に実行委員としての協力を依頼し、本人同意のもと委員会を結成した。

《事後活動セッション実行委員》

ギエルメ・ドス・サントス・オノーリオ（ブラジル）、アサエリ・トゥイカナワ・ジュニア（フィジー）、森田晃世（日本）、栗林文（日本）、嵩元直萌（日本）、渡邊裕爾（日本）、宗村奈津（日本）、ジョンソン・ラエラ（ニュージーランド）、マシュー・レナタ（ニュージーランド）

セッションはジョンソン・ラエラが司会となり、当日の進行を務めた。初めに齋藤から前日のSWYAAの情報に追加して、現在開発が進んでいるHumHubについて紹介した。これは下船後に活用できるインターネット上の既参加青年のためのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・システム）で、自分の興味のある分野や国、参加年度などをタグ付けすることで、同じ興味を持つ既参加青年を検索し、交流できる場である。この仕組みが今後の事後活動で有効に活用できることが伝えられた。続けて、実行委員が現時点で企画している事後活動計画及びその活動をどのように事後活動組織やSWYネットワークと連携するかについて発表した。

◇実行委員による発表概要

- **アサエリ・トゥイカナワ・ジュニア（フィジー）**：自国における活動の話をした。国際化に伴い、国内の産業が西洋化していく中で、先住民族の文化に根差した農業の重要性について気付き、自分の仕事を辞めて青年起業家として農業に取り組み始めた。起業して2年間は安定した収入がなかったが、自分の志を実現するためには犠牲も必要だと考えた。現在は農業だけでなく、雇用の創出やコミュニティに貢献しながら、人々が生活の糧を得られるように指導している。自国の文化の西洋化についても疑問を投げかけ、自国のあるべき姿を農業を通して訴える活動を実践している。
- **宗村奈津（日本）**：鹿児島をベースとした活動の計画を発表した。自身が15歳の時に親の転勤に伴い東京から鹿児島に転居した。東京に残りたかったという思いと新天地の鹿児島での生活との間で葛藤することも

あったが、「世界青年の船」事業に参加することが決まり、「鹿児島ナイト」等を企画したことで、参加青年に鹿児島の魅力や県産品について紹介する機会に恵まれ、鹿児島への思いが強まった。この体験をきっかけとし、今後事後活動として地方創生に関わっていく決意を表明した。

- **ギエルメ・ドス・サントス・オノーリオ（ブラジル）**：自国で実施している教育プロジェクトの紹介をした。ブラジルの子供たちの多くは十分な教育を得られていないという問題意識から、土日を使って高校生にボランティアで授業を実施している。現場で活動する中で、自国の教育システムに多くの課題と改善すべき点があることを知った。その問題へのアプローチとして、大学生が週末に高校での授業をする仕組みを作った。その一環で、資金的援助の必要な学生に石鹸の作り方と販売方法を教えるなどして、生きる術や社会活動を起こすための手順を教えている。
- **マシュー・レナタ（ニュージーランド）**：自らの実施する青少年育成活動について発表。自身が非行少年で、学校を退学させられそうになった時、ユースワーカーに救われ、更生の道を選んだ過去を共有。現在は自身もユースワーカーとなり、手助けの必要な青少年の更生に尽力している。活動は、青少年育成に限らず、社会の助けを必要としている全ての人に広げている。今後これらの活動をまずSWYネットワークに広げていくことの重要性に触れ、事後活動として他国の青少年育成の実態について学び、国際的な青少年育成ネットワークを構築したいと発表した。

発表の最後に深作が既参加青年視点での事後活動実施や心構えについて、自身の事後活動の紹介を通し共有した。

◇深作発表要旨

「事後活動をするために事後活動をする必要はない」という言葉から話を始めた。SWYネットワークを活用することで活動の幅を広げることができる旨を伝え、自分自身の熊本震災の復興支援活動がどのようにSWYネットワークと関わったかという例を紹介した。熊本での継続的な支援活動を行いながらイベントを企画実施する中で、この企画を被災者のみならず、多くの人々と共有する必要があると考え、SWYネットワークに呼びかけた。呼びかけに応じた既参加青年はイベント開催への協力をするのみならず、被災地の現状を学ぶ機会として被災者から話を聞き、実際に被災地を視察する機会を得た。この活動は「事後活動をしよう」と考えて実行した

ものではなく、自分の想い（パッション）を実行に移しただけである。このように想いをもって行動すると、必ず既参加青年が協力し、その可能性を広げてくれるということを実感した。事後活動とは自らの情熱や志の先にあるものであり、無理に事後活動を実施しなければならないと考えるのではなく、自らが必要と思う活動を展開することを大事にしてほしいと話した。

セッションの後半は、委員会の主導でスピード・ネットワーキング・セッションを開催した。

◇スピード・ネットワーキング・セッション

各参加青年が自らの興味を持っている分野（タグ）を紙に書いて掲げ、同じような分野に興味を持つ参加青年同士で自らの事後活動計画を共有するとともに、HumHubをどのように活用できるかを考える機会とした。

まず参加青年から話し合いたい分野（タグ）について聞き取り、どのようなディスカッションのテーマを作るべきか参加青年全体で決めた。

◇参加青年から挙げられた分野（タグ）

地域活性、環境、青少年育成、科学、平和構築、教育、文化、報道・メディア、国際関係、芸術、観光・旅行、マーケティング、持続可能な社会、食料・農業、復興支援、人権、言語、特別な興味

参加青年は興味のある分野毎に分かれ、グループ内で1対1のペアを作り、各ペアでそれぞれが考えている事後活動の計画を4分で共有した。その後グループ内で別のメンバーとペアを組み、同様に4分間の共有を複数回継続した。

スピード・ネットワーキングのまとめとして、参加青年が以下のような所感を述べた。

◇スピード・ネットワーキング・セッションの感想

- 佐竹優輝（日本）：将来は政治に携わり、38歳になったら市長になり、SWYネットワークを活用しながら活躍したい。
- チェタナ・タマダディ（インド）：有機農法の在り方について他の参加青年と話し合った。今後も互いに情報共有を続けていきたい。また、食料廃棄問題に取り組みたいとする日本参加青年とも情報共有ができた。
- スヴィトウラーナ・ヤロヴァ（ウクライナ）：本セッションを通じ、同じような分野に興味を持っている参加青年が多く、互いに協力できると気付いた。これから下船までの間、本セッションのような話し合いを自主的に継続したい。

これらの発表の後、司会のジョンソンより、事後活動セッションをきっかけに残りの船内活動を充実させ、下船後もSWYネットワークを活用し事後活動を展開してほしいとコメントがあり、二日間の事後活動セッションが終了した。